



会長あいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 上田 克彦

本年発生した新型コロナウイルス感染症の対応におきまして、医療関係者皆さまの献身的な活動に感謝申し上げます。

さて、第36回日本診療放射線技師学術大会は、メインテーマを「国民と共にチーム医療を推進しよう」、サブテーマを「人と技術をつなぐ令和の未来へ」として、本来であれば宮城県仙台市で開催の運びでしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、会場を用いた対面形式での大会を中止せざるを得ない状況となりました。本大会の開催中止という選択肢もございましたが、すでにたくさんの研究発表演題を応募いただいていることから、急きょWeb形式で開催することで皆さまの研究成果を生かすという決断を致しました。

日本診療放射線技師会（以下、JART）として初めてのWeb形式での学術大会の開催ですが、宮城県の実行委員会の皆さまとJARTの担当役員の協力により開催できるめどが立ちました。本学術大会の開催準備にご協力いただきました皆さまには心からお礼申し上げます。

大会運営の詳しい手段が未決定の中で、本大会の参加登録費設定にも苦慮致しましたが、今回は特別な参加登録費として会員1,000円、非会員2,000円、学生500円と致しました。詳細は大会のホームページでご確認いただけますようお願い致します。

新型コロナウイルス感染症は全世界にさまざまな影響を与えていますが、「新しい日常」としてオンラインによる社会活動が拡大する可能性を見いだすことにもなりました。教育現場ではオンラインによる授業、医療現場ではオンライン診療、企業などではオンライン会議・リモートワークなどこれまでとは全く異なる形態での教育や医療、仕事が進んでいます。JARTにおいても、従前からオンライン会議を推奨しておりましたが、ここまでの変化や普及は予想しなかったと言えます。日本はIT社会に出遅れたともいわれていましたが、今回の対応で必然的にIT社会にかじを切ったと言えます。オンライン活動のためにさまざまなツールが存在していたことにも気が付き、私たちがそのツールをうまく利用していなかったことを痛感させられることにもなりました。今後は、JARTとしても会員の皆さまに多くの活動を還元できるように、うまく活用したいと思います。

さて、診療放射線技師のための学術大会では、診療放射線技術に関する最先端の研究もたくさん発表されていますが、日常の診療にすぐに貢献できる内容も多く拝見できます。他の関係学会とは一味違った内容も本学術大会の特徴であると言えます。ぜひ、たくさんの研究や講演、シンポジウムなどをWeb配信で閲覧いただきご評価いただきたいと思います。

最後に、学術大会開催にご支援いただきました厚生労働省、関係企業、宮城県放射線技師会をはじめ各方面の皆さまに御礼申し上げ、学術大会のあいさつとさせていただきます。